

# 美 術

# 256

# 学 会

ヘーゲル「芸術哲学講義」における近代芸術の客觀性 ——ベルリン後期の論考における想像力と実体的本質としての感覺——	岩田 健佑	1
デザインと素描——官立デザイン学校におけるデザイン概念の変容——	竹内 有子	13
ラスキン『近代画家論』第一巻における風景画鑑賞と享受の過程 ——自然を内的に見る眼と外的に見る眼——	橋高 彰斗	25
河井寛次郎の詞句「仕事が仕事をしてゐる仕事」について ——その成立過程と思想的背景——	浪波 利奈	37
カール・ハインツ・ボーラーの「突然性 (Plötzlichkeit)」をめぐって ランシェール美学におけるマラルメの地位変化 ——『マラルメ』から『アイステーシス』まで——	石田 圭子	49
趙孟頫による書聖・王羲之のイメージ生成——《蘭亭序》臨本を手がかりに—— ジョッティスキにおける光と色彩 ——フレスコ壁画におけるアーニヨロ・ガッディのカンジャンテと金属箔を中心に——	鈴木 亘	61
サンタ・マリア・ソプラ・ミネルヴァ聖堂内カラファ礼拝堂祭壇壁画の解釈 ——トマス・アクィナスのマリア論——	根來 孝明	73
プロンツィーノと北イタリア絵画 ——《甲冑姿のコジモ一世の肖像》(ウフィツィ美術館) の意義をめぐって——	下村 澪美	85
ディエゴ・ベラスケス作《ラス・イランデーラス》 ——糸車と縫にみる技芸の発展の寓意——	福田 淑子	97
J・W・ウォーターハウスの花を摘む女性図像の考察 ——ペルセポネ神話と〈暗い〉ギリシア——	瀬戸はるか	109
リチャード・ハミルトンの《Lux 50-functioning prototype》 ——ラックス社創立五十周年事業との関わりから——	山田のぞみ	121
語・発話・思念——ヨハン・マッテゾンにおける <i>sensus rhetoricus</i> 概念——	若名 咲香	133
	吉村 典子	145
	岡野 宏	157

## 書評

星野太 著『崇高の修辞学』月曜社、2017年	桑島 秀樹	169
小野寺玲子 責任編集『ランドスケープとモダニティ——トマス・ガーティン からワインダム・ルイスへ』ありな書房、2019年	大城茉里恵	175
例会・研究発表会発表要旨		181
学会消息・編集後記		187
欧文要旨		198